

これからの関西を牽引する 2人のマエストロを迎えて

2014年5月19日関西クラシック音楽界の将来を担う2人のマエストロが The Symphony Hall の舞台に現れた。
藤岡幸夫(関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者)と飯森範親(日本センチュリー交響楽団首席指揮者)である。
藤岡氏は今年関西フィルハーモニー管弦楽団(関西フィル)と15年目のシーズンを迎える首席指揮者、
飯森氏はこの4月から日本センチュリー交響楽団(センチュリー)首席指揮者に着任した。
個人的にもノリチカ(飯森氏の名前)サッチー(藤岡氏のニックネーム)と呼び合う親友同士の2人のマエストロに
これからの関西クラシック界への展望を聞いてみた。



特別ゲスト
藤岡幸夫 関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者
飯森範親 日本センチュリー交響楽団 首席指揮者
聞き手 喜多弘悦 ザ・シンフォニーホール取締役ゼネラルマネージャー

2人のマエストロが
大阪という街を
選んだその想い

藤岡「とにかく新しいクラシックファンを大切に育てて増やす努力が大切」

飯森「できるだけ多くのニーズに応えることでファンの理解を求める」

喜多 藤岡さんは今年で15年目のシーズンを迎えます。関西フィルととても長い付き合いになります。が、なぜ、ライフワークの中心を大阪に置いたのでしょうか？

「関西フィルと私はもう家族同然、夫婦でも15年ももたないのがたくさんいるんだから」

藤岡 私は日本が本当の意味での先進国になるためには文化の成長が不可欠と考えています。そして、東京一極集中ではなく、国中に文化が広がらないといけないと思っています。だから東京ではなく、関西からも文化を成長させることが大切と考えたのが理由です。

ヨーロッパでも長い間活動をしていますが、大都市だけでなく、小規模な街にもしっかりと文化が根付いている。この事が今の日本にとって非常に重要な課題だと思っています。関西フィルと

はもう家族のようなもの。本当に団員を信頼、信用しているからこそ、本気で意見を戦わせ、ときには大ゲンカをすることもありますが、家族は必ず仲直りして、共に素晴らしい音楽を作り上げることができます。

喜多 同じく飯森さんも色々な活躍の場を持っておられる中、大阪を選ばれましたが、その決断にどんな想いを抱いているのでしょうか？また、山形交響楽団では地方の小規模だったオーケストラを名実共にメジャーに押し上げた経験と実力をお持ちですが、それをどんな形で関西に活かされようとしているのでしょうか？

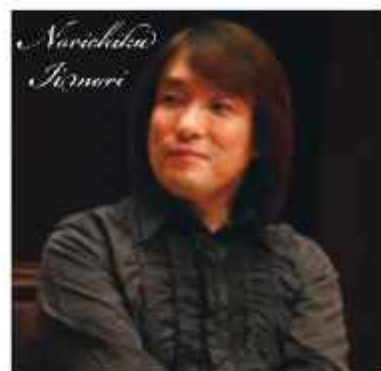
飯森 私も彼と同じような思いをもっていきます。文化とは広く多くの人に広めてこそ真価が現れる。だからより多くの人たちのニーズに応えていく努力が必要。そしてその努力の積み上げが結果として新しいファンを生み出す力になると思っています。その為には、非常に高度で情熱的な演奏でお客様の心をつかまなければいけません。私は、センチュリーはそのポテンシャルを充分にもっているオーケストラだと確信しています。大切なことは何も変わらない。ただ、本当にクラシックが好きなたちに満足して頂くことは当然のこととして、クオリティを上げる努力をしつつ、そのクオリティを活かして、新しいファンを獲得するためのコンサー

トも非常に重要と考えています。難しく高度な芸術性だけを求めれば、コアなファンには喜ばれるが初めてのお客様には敬遠される。一方で初めてのお客様の為に分かりやすい音楽をやるコアなファンにいやな顔をされることがあります。だから、コンサートのコンセプトをちゃんと決めて、両方のお客様を大切にすることが重要。

藤岡 よく初めてのお客様が来て、交響曲の楽章間で拍手をすることがあります。そんなことがあると、通のお客様が嫌な顔をしたり、時には「シー」と注意をされることもある。私も昔は困ったなと思った事もあったけど、一度ヨーロッパのコンサートでそんなことがあり、楽員に気を使って「困ったね」と話したら、「サチオ何を言っているんだ、今日はあれだけの新しいお客さんを迎えることができた素晴らしい日じゃないか」と言われて、そんな前向きな考え方があるから進化できるんだと改めて感じました。

「関西には2千万人の人がいる。もって沢山オーケストラがあっても良いくらいだ」

飯森 とにかく関西には2千万人という人口がある。ヨーロッパには12万程度の町が多く、そんな小さな町にもオーケストラがあることを考えると、大阪にオーケストラが4団体というのはいかにも寂



Naoki Kato
Tsumori

しい。もってあって切磋琢磨して、そして機運を盛り上げ、多くの新しいファンを開拓することが重要なんです。

2人のマエストロが出した 1つの方向性

藤岡 ノリチカと喧嘩になって、もかまわなない！自分の音楽をぶつける覚悟だ！

飯森 「自分らしさを発揮する。オーケストラの違った魅力を際立たせる」

喜多 話をお伺いしていると、2人共、クラシック音楽界に新しいお客様を呼び込むために、新たな企画が必要と考えておられる。そんな中、今回「大坂秋の陣」という企画を、共同で立ち上げられました。

飯森 せっかく親友がいる大阪に来たんだし、何か一緒にやりたいね

とは話していました。そして2つのオーケストラの全く違う魅力を存分に発揮できるこの企画が面白いなということになりました。

藤岡 まず大切なことは、オーケストラ同士がお客様を取り合うような、又、自分達の事だけを考えているような狭い見ではダメ！そんなことより、お客様が何を求めている、どうしたら受け入れてもらえるのかを考えることが大切。私はこの企画で全くカラーの違う2つのオーケストラが奏でるチャイコフスキーを聞いてもらいたい。お互い求めていることは同じ方向だが、音楽は別！！この演奏会をきっかけにノリチカと喧嘩することになっても構わないくらい意気込みで臨みたい。(笑)

飯森 サッチーは大袈裟だなー。秋の陣なんていうと勝負しているように見えるかもしれないけど、ぼくは全く違うリアクションがお客様から得られると確信しています。



Naoki Kato
Tsumori

藤岡 そのとおり。終わって見たら、どっちが良かったみたいな話にはならないと思います。

喜多 この選曲はどんな話し合いから決まったのでしょうか？

藤岡 ぼくはチャイコの5番をやる機会が多いので、今回は6番でと言いました。

飯森 じゃあうちは、5番でということで。

喜多 そんなに簡単に決まったんですか？

藤岡 そうです。スカツと決めて、あとは頑張るのみ。

喜多 しかしー日で2つのオーケストラ、2回コンサートを聴くのは、しんどくないですか？

飯森 確かに、同じオケで4時間コンサート聴くと疲れますよ。でも、違うオケで違う指揮者で全く違うアプローチで音楽を聴くのはそんな疲れることにはならないと思うし、あつと言う間に時間が過ぎると思います。

「歴史的瞬間に立ち会ってほしい」

喜多 こんな企画は他の指揮者同士では絶対実現しないと思うのですが。

藤岡 そりゃーそーだよ。こんな企画を受けて立つのは世界中でも、この2人ぐらいいいと思えますよ。

飯森 お互いを良く知っている仲だからこそできるのは間違いない



い。そしてオケのメンバーもすごく高いモチベーションをもってくれています。

藤岡 他ではありえないこの演奏会の当事者として歴史的瞬間に立ち会ってほしいですね。

飯森 大袈裟だなー。でもその通りかも。

喜多 2人の仲良さ、この企画をみると、2つのオケが統合するんじゃないかと邪推する人もいると思うのですが？

飯森 ハッ？それはあり得ない！！

飯森 別々だからこうしてタマに素晴らしい企画を作ることができるとは。

藤岡 統合なんかしたら、それこそ演奏会は減るし、カラーは薄まるし、良いことは何も無い、互いに自分達の信じる道をしっかりと歩み、そして互いに音楽界を盛り上げる。そしてお互いに切磋琢磨するから、更に高いところを目指せる。そのことを私達は守り続けま。でも仲良し2人で、タマには力を合わせないとできない素晴らしい企画も作るとは。

喜多 そんな想いから生まれた「大坂秋の陣」とても楽しみです。ね。事務局の人にも大変なんじゃないですか？日頃からのコミュニケーションとか組織文化の違いとか？

客席で聴いていた2人 私達、結構仲良しです。だから大丈夫です。(B)センチュリー望月、関西フィル黒北

「仲良しは電話がきっかけ」

喜多 ところで何故2人はそんなに仲が良かったですか？

藤岡 電話があったんです。「友達になろう」と。『すごい奴だな』と思ったよ。でも、仲良くなるうと。ノリチ力はよく引越すけど、よく位じゃないかな、全部の家知ってるの。

飯森 ほんとに家族ぐるみで仲良しで、奥さん同士も仲が良いから、今日はサッチーと飲んでるから、なんて嘘は絶対NG!!(笑)

ザ・シンフォニーホールについて

藤岡 「ザ・シンフォニーホールは世界最高の響き」

飯森 「ここがホームグラウンド」

喜多 最後に二人にザ・シンフォニーホールについてお話を聞きたいと思います。これから我々

ホールに期待することなども含めて。

藤岡 私は世界中のホールを周りました。このホールは本当に世界最高の響き、それは丁度のサイズ感。これより小さいと音が響きすぎる、これより大きいと音が響かない。興味的に考えるとどうしてもサイズが大きくなるのは仕方ないかもしれません。でも、そんなことを考えないで作ると、このホールの様な最高の空間が生まれます。私はここで演奏するのが大好きです。多分、年間を通して一番沢山指揮を振っている指揮者の一人だと思います。とにかく、今回、運営が変わって舞台裏とか色々綺麗にしたいんだけど、とても使いやすくなったけど、このホールのこの響きを未来永劫守ってほしいです。何よりもびっくりしたのは、滋慶グループの経営者が名前も用途も何も変えないと決断されたこと、そこに敬意を持っていきます。どうしても会社の名前を入れたいと思うのが普通だと思えますが、あえてそれをしなかった。本当の意味で、ザ・シンフォニーホールを守ってもらえたと感謝しています。

飯森 私が初めてこのホールで指揮を振ったのは22歳、大学4年生の時でした。その時の響きの美しさ、ホールに来て「バチン」と手を叩いてみた時の(実際に手を叩いてホールに響く音を聞きながら)この残響。ほらすごいでしょ。全て

がカルチャーショックでした。それまで日本にはこんな綺麗な音の鳴るホールはなかった。

藤岡 そうだよ、それから客席の近さ。この温かみのある臨場感、距離感。2階席の奥まで座っている人の顔が見える。

飯森 まさにオーケストラと客席が一体となって音楽を作り上げることのできるホール。そのホールをセンチュリーのホームとして使えることに感謝しています。

これからもっと沢山の人がこの素晴らしい響きを伝えて行きたい。

この2人のマエストロがこれから作り上げる新しい音楽が楽しみでたまらない。そして、関西経済同友会が中心になって作り上げたアーツサポート関西(ASK)など、芸術文化をしっかりとサポートして、2人が言うように文化度の高い真の先進国を作り上げようという機運が経済界からも吹き上がってきている。まさに、関西に芸術文化の風が吹き出したと感じる読者の皆さんも多いのではないかな。

リハール、本番、そして移動と過密なスケジュールをこなす2人のマエストロが、ピンポイントでスケジュールを合わせてホールに来て下さった。これからの意気込み、関西音楽界に対する想い。本当に素晴らしいお話を聞かせて頂き心から感謝致します。

見逃せない!!「大坂秋の陣 2014」

2人のマエストロが次にこのホールで会うのは「大坂秋の陣 2014」当日

特選ディナー付きプレミアム席20,000円がある(80席限定)。ちょっと高いと感じるかもしれないが、ホール近くのウェスティンホテル大阪の中国料理「故宮」での食事がついていて、なんとおふたりのマエストロも参加するという特別なディナー。

偉大なマエストロでありながら本当に気さくでファンを愛するおふたりと、ディナーを共に出来るチャンスならこの贅沢は許されるのでは!!ただ、この号が発行されるまでチケットが残っているかは不明だが。

藤岡幸夫&関西フィル×飯森範親&日本センチュリー 大坂秋の陣2014

[指揮]藤岡幸夫(関西フィル首席指揮者)、飯森範親(日本センチュリー首席指揮者)

[管弦楽]関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団

≪14時開演 関西フィルハーモニー管弦楽団公演≫

トークゲスト:飯森範親

モーツァルト:交響曲第35番「ハフナー」 チャイコフスキー:交響曲第6番「悲愴」

≪17時開演 日本センチュリー交響楽団公演≫

トークゲスト:藤岡幸夫

モーツァルト:交響曲第36番「リンツ」 チャイコフスキー:交響曲第5番

2014. 9/15(月・祝) 2:00PM(1:00PM 開場) 5:00PM(4:00PM 開場) プレミアム20,000円 A 8,000円 B 6,500円 C 5,000円 車いす5,000円(税込・全席指定)

※2つの公演セット券のみの販売となります。

※プレミアム・車いすのお取扱いは、ザ・シンフォニー チケットセンターではございません。関西フィルハーモニー管弦楽団、またはセンチュリー・チケットサービスにてご予約下さい。

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[ご予約・お問い合わせ] 関西フィルハーモニー管弦楽団 06-6577-1381 [平日10:00~17:00]

センチュリー チケットサービス 06-6868-0591 [平日10:00~18:00]